

## スキー部活動参加報告

## B1 倪 瀚波

2月6日から8日、合唱団スキー部は例年通り、本間部長の引率で鱒ヶ沢岩木山でスキー活動を行い、私は初めて参加しました。

直前と最中の降雪のおかげもあり、雪の質も量も個人史上最高でした。スキー後進国から来た私は、大学時代に何回か行っただけでしたが、佐藤さんの指導の下、スキーが楽しくなり、夜寝る前に、足を動かしながら、イメージトレーニングをしたり、何度も痛い身体を弱アルカリ性の名湯に浸かり体力回復をはかりました。

メンバーに的確に指導する佐藤さん、いつも殿を務めたり、スキー板を運んだり岡本さん、野本さん、連日10人以上のパーティーで行動をし、安全と楽しさを確保する諸先輩方に敬意を表したいと思います。会計担当の新木さんの名幹事ぶり、伊藤さん、松尾さんの体力、感服致しました。

2日目撮影協力者が撮ったビデオで自分達のフォームをすぐ確認する事ができました。皆さまが楽しく滑られている姿は何度見ても良いものです。

補足：秘密来賓の臨時T1のおかげでいつもの合唱団らしく、4部揃って、5曲も歌いました。

## 行動記録

2月6日(木)7:45羽田空港発 JAL141

本間、新木、伊藤、北村、岡本、倪、松尾、野本、西山、小濱、鶴野の11名が早朝の空港に集合。

青森空港着 9:10 予定が、滑走路除雪作業遅延のため45分ほど上空で待機。我々が豪雪を運んできたため、滑走路の除雪が間に合っていない。

送迎バスでロックウッドホテル&スパに11:30到着。佐藤さんのお出迎え。まず、スキーなどのレンタル手続きを済ませて、昼食。

佐藤さん談：昨日まではあまり雪がなかった。今日は最高のコンディション。



体操後リフトに乗って滑走開始。時折横殴りの雪が降るかと思えば、一瞬雲が切れたり、山の天気はわからない。新雪がふかふか、時折コース脇の雪だまりに突っ込んで、転倒、雪まみれになる。佐藤指導員の各自の技量を把握しながらの2時間ほどの初日講習が終了。露天風呂のある温泉へ駆け込む。冷え切った体に温泉の心地よさが染み渡る。

この温泉タイムで緊急参加の原田さんと合流。

食事前に、新木会計幹事部屋に集合すると、ギンギンに冷えたビールと、佐藤さん差し入れの青森の銘酒「田酒」、原田さんご持参のシバスリーガルが待っている。地元のおつまみも最高。ホールでの夕食後、また部屋に集まり二次会。幹事部屋の周囲はすべて合唱団の部屋で固めてあり、コーラスで締め。



2月7日(金) 一晩のうち更に更に降雪があり、圧雪車の音で目が覚める。この日は佐藤さんの同僚指導員、瓜田さんによるビデオ撮影付きの指導。ゴンドラに乗って最上部まで行くと、日本海が眼下に広がっている。雪雲の向こうは北海道だ。

各自佐藤指導員のもとに的確なアドバイスを受けながらのスキー教室。残念ながら指導通りに体が反応するには、耳から脳を経由して体幹、手足に到達するまでの時間がかかりすぎる。

この日は、入浴後夕食前に瓜田さん撮影のビデオ映写大会。四六のガマの油売は、口上で「ガマは鏡に映った己が姿の醜さに、タラーリタラーリと脂汗を流す」だが、まさにガマになった心境。瓜田さんには SailingSailing で謝意を表したが、瓜田さん、脂汗が出なければ良かったけど。

2日目とあって夕食後の二次会は軽めに終わったが、体力の余ったメンバーが、温泉卓球に興じていた。



2月8日(土)早くも最終日。

朝食後は、休養班、フリー滑走班、指導付き班に分かれて休養班以外は更なる新雪を満喫。弘前大学在学中の北村さんご令嬢夫妻の参加もあった。若者はこの日筋肉痛を訴えるが、高齢者は、やはり筋肉までの伝達速度が遅い。

指導付き班では、持ち主の虐待に耐えかねてか、スキーが一本逃走、行方不明という事件が発生。搜索も虚しく、持ち主は一本足スキーという超高等テクニックを習得しながら下山。

昼食後、送迎バス出発の時間まで温泉で雪見風呂を満喫。おかげでバスの中は熟睡。

17:00青森空港発 JAL148 は遅延もなく、18:25羽田に到着。充実の3日間、全員無事の帰還を祝して解散。